

オラフ・エステソンの夢の歌

DAS TRAUMLIED VOM OLAF ÄSTESON

語りとライアーコンサート — 東京集会支援のために —

2019年1月6日（顕現日、顕現祭第一日曜日）午後2時～3時45分

出演 アンサンブル トraumリート

ライアー 鈴木理佳、高木芙二子、川杉啓子、芝山恭子、皇恭子

語り 中谷三恵子

このたび新年の大きな祝日にふさわしく、私たちの東京集会で朗読付きのコンサートが催されることになりました。それは経済的なご支援でもあり、新しい年を光のもとで祝うことができるよう、そしてこれからも東京集会がキリスト者共同体の実現に向かってしっかりと生きていけるよう、念じてくださることでもあります。どうか多くの皆様にこの芸術体験を通してそのようにご支援を賜れますよう、お願い申し上げます。

東京集会支援行事として入場料に代えて御一人二千元以上のご寄付をお願い申し上げます。

会場：キリスト者共同体東京集会久が原集会所(東急池上線久が原駅徒歩3分)

定員：三十名 定員になり次第、締め切らせていただきます。

申込：東京集会へメールかファックスにてお願いいたします。

Mail: tokyo@kirisutoshakyodotai.org Fax: 03-3757-4917

十四歳以下のお子様は入場できません。

「オラフ・エステソンの夢の歌」はオラフ・エステソンという若者がクリスマスの夜床に就き、そのまま1月6日の朝まで13日間眠り続け、その間に見た霊的な出来事を教会で語るという物語です。1912年1月1日ドイツ・ハノーヴァーで、ルドルフ・シュタイナーによってアントロポゾフィー協会に紹介されました。元々はノルウェーに古くから伝わっていた物語で、それをシュタイナーの友人が発見し、シュタイナーに紹介しました。彼が訳したドイツ語訳にシュタイナー自身が手を入れ、マリー・シュタイナーによって朗読されました。その後シュタイナーはこの物語にオイリュトミーのフォルムを作り、ピアノ曲が作曲され、アドヴェントの頃に上演されるようになりました。またヨハンナ・ルスというライアー演奏者がこの物語をライアー用に作曲しました。このたび12月25日から1月6日までの13日間を特別に祝うキリスト者共同体東京集会支援のため、上演いたします。

中谷三恵子